

平成27年度

定時総会を開催

去る5月25日(月)、平成27年度定時総会を港区の明治記念館にて開催しました。

当日は、平成26年度事業報告並びに決算報告、平成27年度の事業計画(案)並びに収支予算(案)についてご承認いただきました。

また、議事終了後、優良技術者表彰式(13頁)を執り行いましたので、その概要を報告します。

平成26年度 事業報告並びに同決算報告について

— 平成26年度 事業報告 —

■ はじめに

会員各位のご支援・ご協力により、平成26年度事業を遂行できましたことを心から感謝申し上げます。

本年度は、技士会単独の講習会を9のテーマで開催したほか、事業の柱の一つとして、(一社)東京建設業協会と共同により、若年技術者に重点を置いた研修会を8回実施いたしました。

また、広く都民や学生の方々に土木技術者の役割と社会資本整備の重要性を理解していただくため、「一般向け土木施設見学会」を開催し、今年度新たに「みんなの建設業☆就職フェスタ(合同企業説明会)」を東京建設業協会と共催いたしました。

さらに、会員会社が施工する工事現場3ヶ所を視察し、異業種等施設見学会を1回実施し、土木技術者の技術力向上の支援に努めました。

このほか、会員名簿、機関誌「DOBOKU技士会 東京」を発行しました。

■ 事業報告

1. 技術力向上に関する支援事業

(1) 各種研修会・講習会の実施

技士会単独開催を9回、(一社)東京建設業協会との共催を8回、合計17回の講習会・研修会を開催した。また、1級土木施工管理技術検定学科試験受験準備講習会の受講者のうち学科試験合格者に実地試験対策のために問題集を配付した。

①若年技術者のための支援(共催)

- 建設業新入社員研修会 4月2日～3日
- 若手技術者のためのコミュニケーション能力強化研修会 6月17日
- 新入社員半年フォロー研修会 10月9日
11月13日
- 若手社員(3～5年次)フォロー研修会 10月23日

②1級土木施工管理技士資格取得のための支援

- 学科試験受験準備講習会 6月4日～5日
- 学科試験合格者に実地試験問題集を配付(会員かつ講習会受講者対象) 8月下旬

③基礎的な技能習得のための支援

- 安全管理講習会 4月23日
- 仮設構造物(土留め工)の設計講習会 5月20日
- コンクリート施工技術講習会 8月26日
- 環境管理講習会 9月24日
- 公共工事の積算に関する講習会 11月18日

④総合的な技能習得のための支援

- 現場代理人の折衝力強化研修会(共催) 4月21日
- 現場管理スキルアップ講習会 5月14日
- 工事をコントロールするマネジメント能

- 力実践講習会 7月16日
- ・総合評価対策のための工事成績アップの
ポイント講習会 10月24日
- ・建設業のCSRと現場のリスク管理講習会
2月17日

⑤ 経営者のための支援（共催）

- ・2020年東京オリンピックへの期待とこれ
からの都市づくり（講演会） 6月6日

(2) 土木工事現場の視察

土木技術者の技術力向上を図るため、会員
会社の協力を得て、土木工事現場の見学会を
3回開催した。

- ・善福寺川調節池工事 6月26日
- ・京急大師線連続立体交差化工事
11月7日
- ・東京都芝浦水再生センター・森ヶ崎水再
生センター間連絡管建設工事 2月19日

(3) 異業種他分野等各種施設の視察

- ・ヤマトグループ「羽田クロノゲート」見
学会 1月29日

2. 広報事業

(1) 若年者への魅力ある建設業のPR

若年者への建設業のPRと会員企業の人材
確保の一助となるよう合同企業説明会を東京
建設業協会と共催した。

- ・みんなの建設業☆就職フェスタ(合同企
業説明会)の開催（共催） 3月20日

(2) 一般向けの理解促進に関する事業

- ・隅田川・東京湾橋梁見学クルーズ（一般
向け施設見学会） 10月18日
- ・「わくわくすいすいKIDSクラブ水辺探
検隊」への協力 8月2日 8月9日

(3) 機関誌「DOBOKU技士会 東京」の発行

機関誌「DOBOKU技士会 東京」を年3回
発行し、会員及び関係行政機関・建設関係団
体等に配布した。

- ・第58号（4月）
- ・第59号（8月）

- ・第60号（12月）

(4) 会員名簿の発行

- (5) 土木施工管理に関する情報収集及び提供
講習会・見学会の開催案内をはじめ、メー
ルとホームページを活用して情報を提供し、
利便性の向上を努めた。

3. 調査研究

講習会で使用するテキストの作成及び研究
をはじめ、講習会受講者アンケートや現場見
学会受入先調査などを実施した。

- (1) 現場見学受入れ先調査
- (2) 事業運営に必要な各種調査の実施

4. 表彰

- (1) 優良技術者表彰の実施
会員から推薦された優良技術者114名を表
彰した。
- (2) 各種表彰候補者の推薦
優良技術者の中から3名を（一社）全国土木
施工管理技士会連合会が行う表彰に推薦した。

5. 連絡協議

- (1) 関係行政機関・関係団体との連絡協議
関係行政機関・建設関係団体をはじめ、各
地方技士会、（一社）東京建設業協会等と随時
情報交換を行った。

6. 会議

- (1) 総会
定時総会 5月26日
議決事項
① 平成25年度事業報告並びに同収支決
算に関する件
② 平成26年度事業計画(案)並びに同収
支予算(案)に関する件
役員改選
優良技術者表彰 114名

(2) 理事会

第1回 5月26日

- ① 平成25年度事業報告並びに同収支決算に関する件

第2回 3月24日

- ① 平成27年度 事業計画(案)に関する件
- ② 平成27年度 収支予算(案)に関する件

(3) 監事会 4月10日

- ① 平成25年度事業並びに決算について
監査

7. 委員会

(1) 総務委員会

第1回 12月8日

- ① 平成26年度会員の異動状況と収入状況について
- ② 平成26年度事業の実施状況と今後の予定について

第2回 3月11日

- ① 平成27年度事業計画(案)について
- ② 平成27年度収支予算(案)について
- ③ 今後の予定について

(2) 事業運営委員会

第1回 11月26日

- ① 平成26年度事業の実施状況について
- ② 今後の事業予定について
- ③ 優良技術者表彰について

第2回 3月2日

- ① 平成27年度事業計画(案)について
- ② 平成27年度優良技術者表彰について

・講習会グループ会議

(11月12日、2月12日)

平成26年度講習会事業の実施状況、平成27年度講習会事業などを協議した。

・現場視察グループ会議

(4月8日、10月17日)

平成26年度現場見学会候補地を選定した。

・情報・広報グループ会議

(6月11日、10月29日、2月6日)

機関誌「DOBOKU技士会 東京」、合同企業説明会、異業種他分野各種施設見学会及び一般向け施設見学会候補地などを協議した。

—— 平成26年度 収支計算書 ——

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

I. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	差異
大科目			
会費収入	33,640,000	33,621,900	18,100
入会金収入	200,000	109,000	91,000
事業収入	4,000,000	3,600,000	400,000
雑収入	100,000	98,377	1,623
当期収入合計(A)	37,940,000	37,429,277	510,723
前期繰越収支差額	13,010,000	12,984,536	25,464
収入合計(B)	50,950,000	50,413,813	536,187

II. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	差異
大科目			
事業費	28,080,000	27,015,129	1,064,871
管理費	8,860,000	8,685,031	174,969
引当預金支出	1,000,000	1,000,000	0
予備費	3,000,000	0	3,000,000
当期支出合計(C)	40,940,000	36,700,160	4,239,840
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,000,000	729,117	△ 3,729,117
次期繰越収支差額(B)-(C)	10,010,000	13,713,653	△ 3,703,653

平成27年度 事業計画並びに同収支予算について

—— 平成27年度 事業計画 ——

■ 基本方針

近年、相次ぐ深刻な自然災害への対応、首都直下地震に備えた既存施設の耐震化や機能更新、さらには2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた各種インフラの整備など、都市基盤の強化は急務であり、国民の生命や財産を守る建設業の役割に期待と関心が高まっています。

このような中、建設業界は高齢化と若年者の建設業離れが大きな課題となっております。優秀な人材の確保は、建設業界の将来に亘る持続的な成長と国土の発展において非常に重要です。

当会では、今年度も合同企業説明会「みんなの建設業☆就職フェスタ」を開催し、優秀な若年者確保を目指す会員企業の取り組みを支援いたします。さらに、これから建設業界を志す学生に向けて、土木技術者の役割と社会資本整備の重要性を理解してもらうための見学会を開催いたします。また、当会の機関誌「DOBOKU技士会 東京」の内容充実を図り、会員の皆さまへ魅力的かつ新鮮な情報の発信を増やしてまいります。

また、来る平成28年度は技士会設立20周年を迎えるため、記念事業の準備に着手してまいります。

このほか、会員のニーズを反映し、技術者のスキルアップと若手技術者の定着支援を目的とした各種講習会、現場見学会、施設見学会を開催するなど、土木技術者の技術力向上に努め、社会貢献につながる事業を展開してまいります。

■ 事業計画

1. 技術力向上に関する支援事業

(1) 各種研修会・講習会の実施

- ① 若年技術者のための支援（共催） 5回程度
- ② 1級土木施工管理技士資格取得のための支援
・学科試験受験準備講習会 1回
・学科試験合格者へ実地試験問題集配付
- ③ 基礎的な技能習得のための支援 6回程度
- ④ 総合的な技能習得のための支援 5回程度
- ⑤ 経営者のための支援（共催） 1回程度

- (2) 土木工事現場の視察 2回程度
- (3) 異業種他分野等各種施設の視察 1回程度

2. 広報事業

- (1) 若年者への魅力ある建設業のPR
- (2) 一般向けの理解促進に関する事業
- (3) 機関誌「DOBOKU技士会東京」の発行
(年3回から季刊へ)
- (4) 土木施工管理に関する情報収集及び提供

3. 調査研究

- (1) 現場見学受入れ先調査
- (2) 事業運営に必要な各種調査の実施

4. 表彰

- (1) 優良技術者表彰の実施
- (2) 各種表彰候補者の推薦

5. 設立20周年記念事業の準備

- (1) 設立20周年記念事業の準備

6. 連絡協議

- (1) 関係行政機関・関係団体との連絡協議

7. 会議

- (1) 総会
- (2) 理事会
- (3) 監事会

8. 委員会

- (1) 総務委員会
- (2) 事業運営委員会
 - ① 講習会グループ会議
 - ② 現場視察グループ会議
 - ③ 情報・広報グループ会議
- (3) 設立20周年記念事業実行委員会

— 平成27年度 収支予算書 —

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

I. 収入の部

(単位:円)

勘定科目 大 科 目	27年度 予算額	26年度 予算額	増 減
会 費 収 入	34,040,000	33,640,000	400,000
入 会 金 収 入	200,000	200,000	0
事 業 収 入	4,000,000	4,000,000	0
記念事業基金取崩収入	2,000,000	0	2,000,000
雑 収 入	100,000	100,000	0
当期収入合計(A)	40,340,000	37,940,000	2,400,000
前期繰越収支差額	13,650,000	13,010,000	640,000
収 入 合 計 (B)	53,990,000	50,950,000	3,040,000

II. 支出の部

(単位:円)

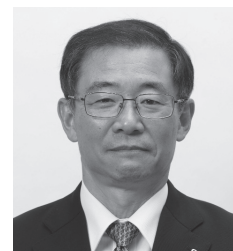
勘定科目 大 科 目	27年度 予算額	26年度 予算額	増 減
事 業 費	30,480,000	28,080,000	2,400,000
管 理 費	8,860,000	8,860,000	0
引当預金支出	1,000,000	1,000,000	0
予 備 費	3,000,000	3,000,000	0
当期支出合計(C)	43,340,000	40,940,000	2,400,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,000,000	△ 3,000,000	0
次期繰越収支差額(B)-(C)	10,650,000	10,010,000	640,000

会長、副会長退任に伴う選任に関する件

水島 久尾会長(大豊建設株)並びに岡本 正副会長(清水建設株)の退任に伴い、後任の正副会長につき総会において審議の結果、伊藤 寛治氏(飛鳥建設株)並びに杉原 克郎氏(清水建設株)がそれぞれ選任されました。

なお、役員名簿は次の通りです。

※伊藤新会長の写真と就任あいさつを15頁に掲載



杉原 克郎 副会長

平成27年6月1日現在
(敬称略)

— [役員名簿] —

	氏 名	会 社 名		氏 名	会 社 名
会 長	伊 藤 寛 治	飛鳥建設株式会社	理 事	高 橋 武 一	東洋建設株式会社
副 会 長	山 田 裕 之	戸田建設株式会社	//	宮 田 篤 史	株式会社ナカノブー建設
//	杉 原 克 郎	清水建設株式会社	//	森 本 裕 朗	西松建設株式会社
理 事	福 富 正 人	株式会社安藤・間	//	一 木 英 臣	日本道路株式会社
//	高 橋 健 次	オリエンタル白石株式会社	//	林 清 一	林建設株式会社
//	瀬 口 智 勝	鹿島建設株式会社	//	金 子 賜	株式会社フジタ
//	加 藤 岩 男	株木建設株式会社	//	野 村 義 安	前田建設工業株式会社
//	石 垣 和 男	株式会社熊谷組	//	三 宅 悟	三井住友建設株式会社
//	越 智 修	五洋建設株式会社	//	神 原 正 明	みらい建設工業株式会社
//	和 氣 講 一	坂田建設株式会社	//	立 川 忠 道	個人会員
//	元 茂 孝 善	佐藤工業株式会社	監 事	奈良岡 茂	ショーボンド建設株式会社
//	西 田 義 則	大成建設株式会社	//	金 子 和 浩	常盤工業株式会社
//	多 田 二三男	大豊建設株式会社	//	佐々木 日出幸	三井住建道路株式会社
//	水 谷 景 洋	東急建設株式会社	常務理事	近 藤 義 弘	東京土木施工管理技士会

平成27年度

優良技術者表彰

当技士会では、技術者表彰規程に基づき、定時総会終了後に「優良技術者表彰」の表彰式を行っています。今年度は次の通り92名の方々が受賞しました。

受賞者の皆さまに対し、心よりお祝い申し上げます。



【技術者表彰規程 第2条第2項該当者】(85名)

国、地方公共団体等が発注した工事で、当該団体から優良工事として表彰を受けた工事に、現場代理人、監理技術者等の立場で業務に従事し、特に優秀な成績をあげ、他の模範となるとして推薦のあった者

(氏名50音順・敬称略)

氏名	会社名	工事名
青木 亨	前田建設工業株式会社	平成23年度晴海五丁目陸上防潮堤建設工事
秋山 文彦	前田建設工業株式会社	さがみ縦貫葉山島地区改良(その9)工事
新井 昌一	大成建設株式会社	白子川地下調節池工事(その5)
伊神 康典	株式会社NIPPO	雨水第1号公共下水道築造工事
池田 隆幸	フジタ道路株式会社	さがみ縦貫西久保JCT改良(その2)工事
石井 義昌	大林道路株式会社	H24五霞地区県道付替工事
市川 哲郎	飛鳥建設株式会社	森ヶ崎水再生センター(東)水処理施設耐震補強工事
稲葉 靖規	飛鳥建設株式会社	古川地下調節池工事(その1)
井上 奨	大林道路株式会社	港区港南三・四丁目地区電線共同溝設置等工事(その5)
今村 東洋治	株式会社ナカノブー建設	H24青戸六丁目地区築堤護岸工事
上田 徹	飛鳥建設株式会社	古川地下調節池工事(その1)
内山 健一郎	清水建設株式会社	日本橋地下歩道(その2)工事
江口 義範	株式会社ナカノブー建設	飯原上流堤防強化対策(H24)工事
榎本 一起	株式会社ナカノブー建設	H24青戸六丁目地区築堤護岸工事
海老原 毅	西武建設株式会社	東京外環準備他工事
大久保 幸佑	株式会社NIPPO	(修)舗装補修工事24-3-2
大場 竜	フジタ道路株式会社	H24国道16号指扇電線共同溝その他工事
小川 典男	坂田建設株式会社	小原橋緊急仮橋架設工事及び旧橋撤去工事
小沼 史明	大林道路株式会社	常磐自動車道 谷和原管理事務所舗装補修工事
川口 成二郎	東急建設株式会社	中川護岸耐震補強工事(その23)
川崎 健一	株式会社日本ピーエス	平成24年度河川改修工事(その13)橋りょう整備工事他
菅野 正徳	株式会社竹中土木	杉並区下高井戸四丁目地先から同区浜田山三丁目地先間配水本管(1350mm)用トンネル及び立坑築造工事
北島 健司	株木建設株式会社	霞ヶ浦湖北流域下水道処理場水処理施設第七系列最初沈殿池土木工事
衣笠 厚人	前田建設工業株式会社	(高負)YK41工区(2-1)基礎工事
木村 潤一	大林道路株式会社	墨46号路線(タワービュー通り)道路景観整備工事(その1)
木村 大佐	株木建設株式会社	河改第3号準用河川狭間川河川改修工事
栗原 朗	大豊建設株式会社	江東区大島五丁目地先から同区北砂五丁目地先間配水本管(600mm)新設工事
黒下 謙太郎	ショーボンド建設株式会社	東関東自動車道 千葉管内鋼橋補修工事
古賀 大貴	日本道路株式会社	首都圏中央連絡自動車道 茂原北IC~茂原長南IC間災害応急復旧工事
後藤 修二	大成建設株式会社	江東区北砂五丁目地先から同区南砂三丁目地先間配水本管(600mm)新設及び配水小管布設替工事
小林 貴宏	株式会社日本ピーエス	さがみ縦貫城山ICランプ橋上部工事
近藤 雅之	株式会社小島組	千葉港葛南中央地区泊地(-12m)浚渫工事(その2)
齋藤 彰	清水建設株式会社	高速八重洲線架替基礎工事
佐藤 勝則	伊藤組土建株式会社	H24南六郷高潮堤防工事
志賀 章人	坪井工業株式会社	千住大橋駅周辺地区駅前広場他築造工事
清水 桂太郎	株式会社富士土木	路面補修工事(24-の13)
清水 琢也	株木建設株式会社	圏央道三坂新田高架橋BR3・4・5下部工事

氏名	会社名	工事名
清水直博	株式会社熊谷組	大江戸線牛込柳町駅出入口新設（その1）工事
清水信宏	株式会社NIPPO	横堀地区エプロン舗装その他工事
生子康明	株式会社富士土木	路面補修工事（24南西の11）及び大和田小陸橋維持工事（橋面舗装）
鈴木聡	株木建設株式会社	霞ヶ浦湖北流域下水道処理場水処理施設第七系列最初沈殿池土木工事
鈴木教之	佐藤工業株式会社	大崎駅構内百反歩道橋架替他
鈴木真寿夫	株式会社竹中道路	国道14号錦糸町電線共同溝工事
高木克輔	三井住友建設株式会社	一般県道小田原松田線開成立体新設（上部工）工事
高橋康太	古久根建設株式会社	H24東平山一丁目低水護岸工事
武橋浩一	栄都建設株式会社	隅田川しゅんせつ工事（その1）
田代洋三	飛鳥建設株式会社	船橋市西浦下水道処理場建設工事その13
田中謙一	株木建設株式会社	圏央道三坂新田高架橋BR3・4・5下部工事
田中秀弥	大豊建設株式会社	白子川整備工事（その131）
田中良晴	株式会社ガイアート・K	16号昭島市緑町他電線共同溝路面復旧工事
谷藤州司	古久根建設株式会社	H24東平山一丁目低水護岸工事
田原大地	株式会社フジタ	（関）SJ22工区（2）街路築造・歩道橋基礎他工事
辻功太	常盤工業株式会社	H24・25上尾道路川田谷地区改良その3工事
出村嘉規	大豊建設株式会社	白子川整備工事（その131-2）
寺下雅裕	大成建設株式会社	東関東自動車道大栄IC～佐原香取IC間（下り線）災害応急復旧工事
土橋功	大成建設株式会社	白子川地下調節池工事（その5）
中飯直人	三井住友建設株式会社	つくばエクスプレス線、車両基地入出庫線複線化
中澤聡志	株式会社日本ピーエス	関越自動車道 湯沢橋補修工事
永淵宏治	三井住友建設株式会社	つくばエクスプレス線、車両基地入出庫線複線化
中村慶克	栄都建設株式会社	隅田川しゅんせつ工事（その1）
南雲義行	佐藤工業株式会社	（修負）高谷JCT橋脚工事
成岡聡介	鉄建建設株式会社	中央線吉祥寺駅改良他
南光洋二	三井住友建設株式会社	新東名高速道路 厚木第一高架橋他2橋（下部工）工事
南原晃隆	戸田建設株式会社	工事中トンネル補修工事
西坂雄二	鹿島建設株式会社	御茶ノ水駅改良仮設棧橋設置工事他
根川宙志	株式会社フジタ	YK12工区YK13工区（1）下部工事
萩原剛	大成建設株式会社	新宿駅東西自由通路新設他工事
濱田雄介	大林道路株式会社	H24五霞地区県道代替工事
林俊幸	鹿島建設株式会社	世田谷区等々力三丁目地先から目黒区自由が丘三丁目地先間配水本管（800mm）新設工事
林正人	オリエンタル白石株式会社	白子川地下調節池工事（その5）
平山徹	三井住友建設株式会社	新東名高速道路 厚木第一高架橋他2橋（下部工）工事
福呂篤史	株式会社NIPPO	青砥橋維持工事（舗装）
藤澤誠也	常盤工業株式会社	H25柏維持工事
古川浩司	株式会社安藤・間	さがみ縦貫愛川トンネル（その2）工事
星宏司	株式会社大涌工務店	平成25年度レインボーブリッジ北側水域沈木対策維持しゅんせつ工事
堀内匡彦	株式会社日本ピーエス	薩埵高架橋塩害補修工事
三好浩司	大豊建設株式会社	中川護岸耐震補強工事（その20-2）
村瀬廣恭	オリエンタル白石株式会社	磯子橋補修補強工事
村田健一	三井住友建設株式会社	街路築造工事のうち取付道路設置工事（24三-放6住吉町外1箇所）
門別二三成	株式会社富士土木	路面補修工事（24南西の11）及び大和田小陸橋維持工事（橋面舗装）
山越貞治	あおみ建設株式会社	東京湾口航路北側護岸付帯工事
山田大	株式会社竹中土木	杉並区下高井戸四丁目地先から同区浜田山三丁目地先間配水本管（1350mm）用トンネル及び立坑築造工事
山田久嗣	株式会社富士土木	路面補修工事（24北北の26）
山本弘記	飛鳥建設株式会社	東村山市青葉町一丁目地内から新座市新堀二丁目地先間原水連絡管（2000mm）用立坑築造工事
吉岡孝則	株式会社小島組	千葉港葛南中央地区泊地（-12m）浚渫工事（その2）

【技術者表彰規程 第2条第4項該当者】（7名）

土木施工技術に関する発明、実用新案、新技術の開発及び論文等に対し、公的機関から表彰された者

（氏名50音順・敬称略）

氏名	会社名	開発・論文名
安部謙	オリエンタル白石株式会社	圧入バイラーによる小円形鋼矢板土留めの締切り管理
泉信也	東亜建設工業株式会社	分級と改良を用いたゴミ混じり津波堆積土砂の再資源化に関する試験施工
井上建次	オリエンタル白石株式会社	圧入バイラーによる小円形鋼矢板土留めの締切り管理
鈴木康秀	オリエンタル白石株式会社	圧入バイラーによる小円形鋼矢板土留めの締切り管理
高倉克彦	大成建設株式会社	シールドマシンのカッタービット再利用によるレアメタルのリサイクル
永田敏秋	鹿島建設株式会社	東北縦貫線工事における技術上画期的な業績
山下雅之	西松建設株式会社	超長尺大口径鋼管受け工法（LL-Fp工法）の開発と地すべり跡地を呈した坑口部への適用実績

新会長就任あいさつ



東京土木施工管理技士会
会長 伊藤 寛治

去る5月25日開催の定時総会において、会長にご選任いただき、大変光栄に存じます。

本会の更なる発展と会員の皆様の期待にお応えするため、会長としての任務を果たしてまいり所存です。

さて、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた各種インフラ整備や激甚化する自然災害に対処するための都市基盤の強化は急務といえます。

これら街づくりの最前線の現場を担う「土木技術者」の役割はますます大きく重要となっております。土木技術者の方々は、街づくりを通じて地域住民の生活を支えているという誇りをもって日々の仕事に励まれていることと思います。

建設業は技術者一人ひとりの能力によると

ころが大きい産業ですが、高齢化と若年者の建設業離れが大きな課題となっております。

当会では、若年者確保を目指す会員企業の支援として合同企業説明会の開催をはじめ、一般の方々に土木技術者の役割と社会資本整備の重要性を理解してもらうための見学会、また、若年技術者に重点を置いた講習会、都市土木等の工事現場視察、異業種他分野施設見学会、機関誌「DOBOKU技士会 東京」の発行など、若年者確保と建設業への理解促進、若年技術者育成、土木技術者の技術力向上に向けた各種事業を実施してまいります。

これら事業を円滑に推進するためには、会員の皆様のご理解・ご協力が必要となります。今後ともより一層のご支援をお願いいたします。就任の挨拶とさせていただきます。